

# 地域生活についての調査

# 報告書

2012（平成24）年5月

帝塚山大学心理学部地域福祉学科 木村泰子

## ～調査ご協力のお礼～

昨年9月、NPO法人「高槻の高齢社会をよくする会」の会員のみなさまを対象に、日常生活や地域活動についてお聞きするアンケート調査をさせていただきました。そして、多くのみなさま方からご回答を頂き感謝しております。

本報告書は、その結果の中から実際の地域活動（おもに「たすきの会」）に参考となる項目を選択し、まとめたものです。一通一通の回答にみなさまの思いが込められ、感謝とともに身の引き締まる思いになりました。今後は、この結果をNPO法人「高槻の高齢社会をよくする会」と共有し、地域活動や助け合い活動の充実に繋げたいと考えております。

ご協力ありがとうございました。そして、みなさまとみなさまのご家族のご健康をお祈りしております。



## I. 調査の目的

会員の現状分析から実際の生活ニーズを把握する

## II. 調査の方法

平成 23 年 9 月 10 日から 9 月 24 日にかけて、NPO 法人「高槻の高齢社会をよくする会」の会員 253 名を対象に郵送。回収数 165 名(女性 146 名、男性 19 名)、回収率 66.0%。

## III. 調査結果

### (1) 性別・年齢別構成(図1)

問 1 あなたの性別はどちらですか。(どちらかに○)

1. 男性 19 人 (11.5%)

2. 女性 146 人 (88.5%)

○会員の男女比は、9割近くを女性が占めていることがわかりました。

問 2 あなたの年齢は、平成 23 年 9 月 15 日現在、どの区分に該当しますか。(1つだけ○)

1. 59 歳以下 18 人 (10.9%)

2. 60~64 歳 22 人 (13.3%)

3. 65~69 歳 36 人 (21.8%)

4. 70~74 歳 29 人 (17.6%)

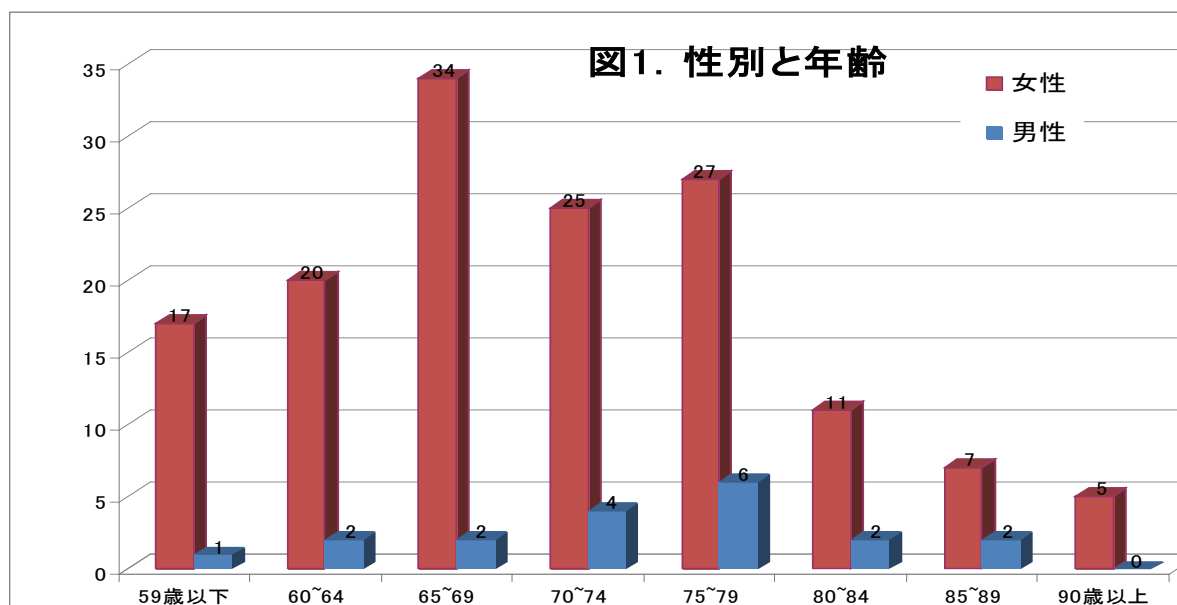
5. 75~79 歳 33 人 (20.0%)

6. 80~84 歳 13 人 (7.9%)

7. 85~89 歳 9 人 (5.5%)

8. 90 歳以上 5 人 (3.0%)

○会員の年齢構成は、女性が 60 歳代後半から 70 歳代が多くをしめること、男性は 70 歳代が多いことがわかりました。

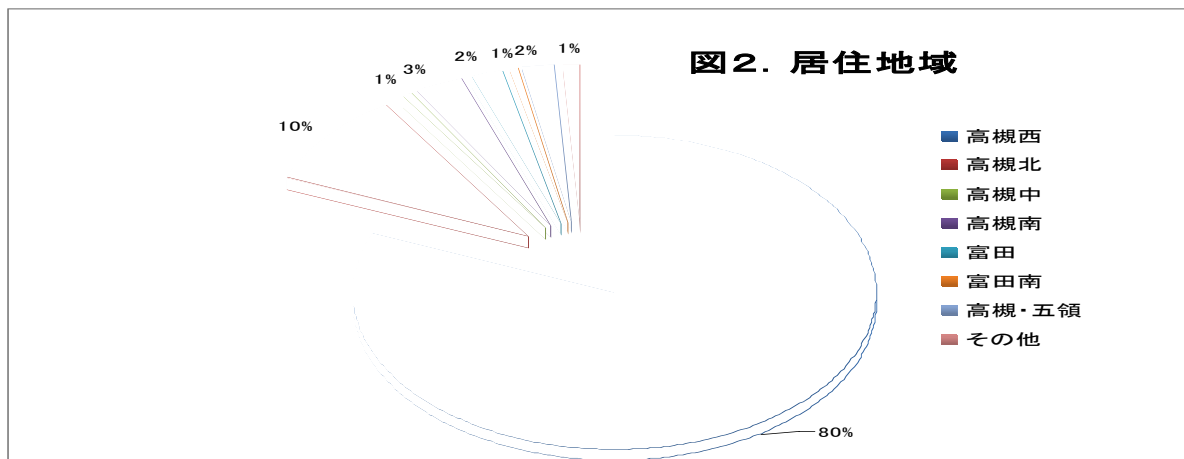


(2) 居住地域(図2)

問3 あなたのお住まいはどちらですか。(1つだけ○) ※市が行っている7区分です。

- 1. 高槻西(氷室、塚原、大和、南平台を含む市北西部) 134人 (81.2%)
- 2. 高槻北(芥川以東) 16人 (9.7%)
- 3. 高槻中(JR高槻駅北周辺) 1人 (0.5%)
- 4. 高槻南 5人 (3.0%)
- 5. 富田 3人 (1.8%)
- 6. 富田南・三箇牧(市南西部) 1人 (0.5%)
- 7. 高槻・五領(JR高槻駅南中心部から東) 3人 (1.8%)
- 8. その他 2人 (1.2%)

○会員の居住地域は、その8割が高槻西地域であることがわかりました。

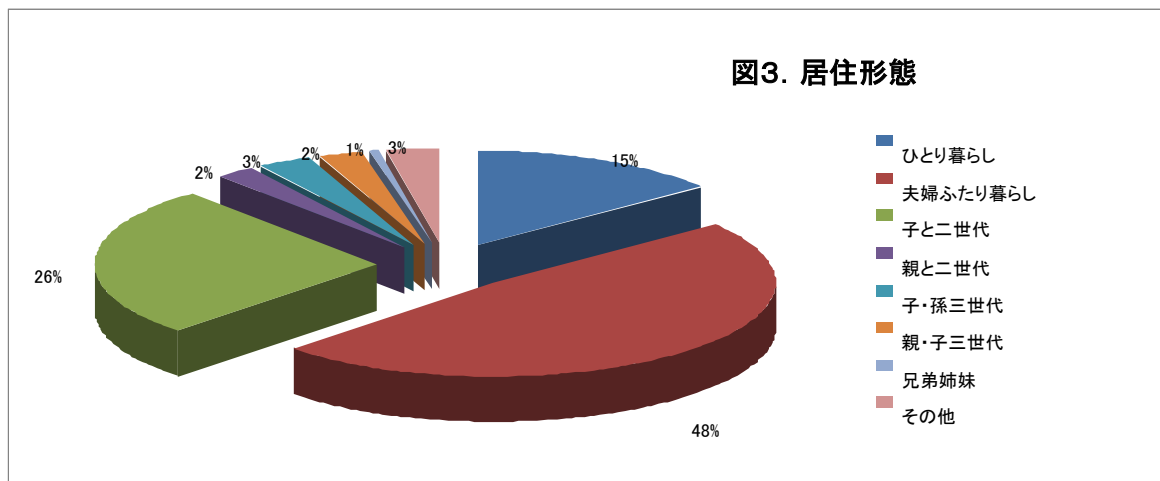


(3) 同居形態(図3)

問4 あなたは、現在、どなたと一緒にお住まいですか。(1つだけ○)

- 1. ひとり暮らし 24人 (14.5%)
- 2. 夫婦ふたり暮らし 79人 (47.9%)
- 3. 子との二世帯世帯 43人 (26.1%)
- 4. 親との二世帯世帯 4人 (2.4%)
- 5. 子世代と孫世代を含む三世帯世帯 5人 (3.0%)
- 6. 親世代と子世代を含む三世帯世帯 4人 (2.4%)
- 7. 兄弟や姉妹だけで暮らしている 1人 (0.5%)
- 8. その他 5人 (3.0%)

○会員の居住形態は、半数近くが夫婦ふたり暮らしであることがわかりました。

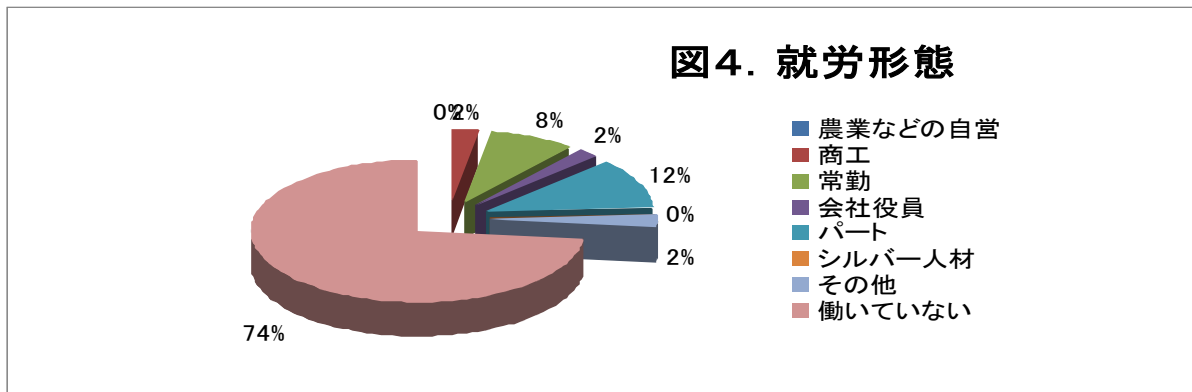


(4) 現在の就業形態(図4)

問5 あなたは、現在働いていますか。(1つだけ○)

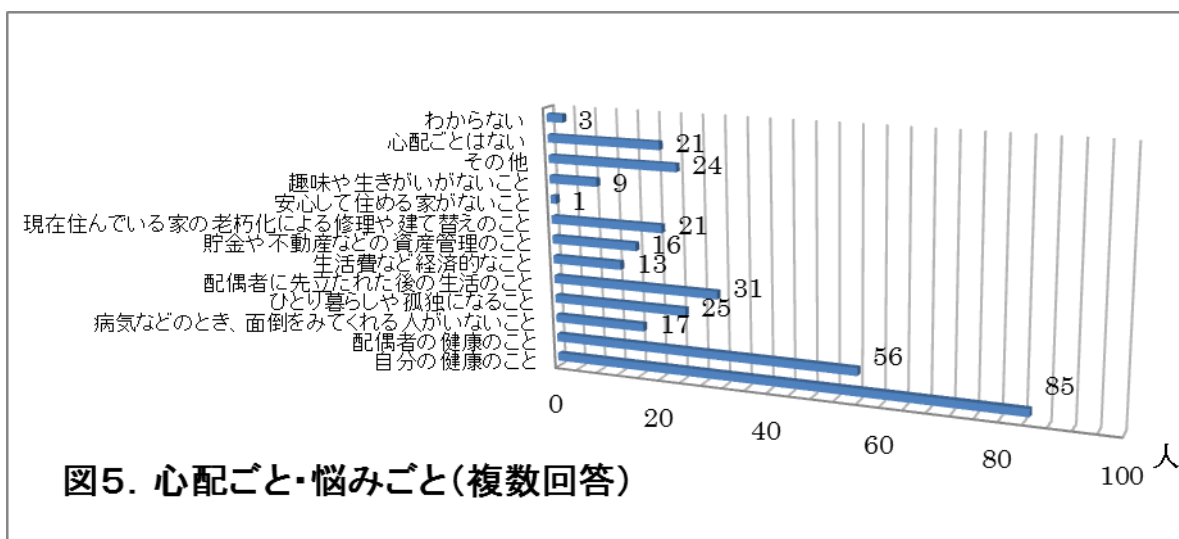
1. 農林漁業などの自営業及びその家族従業者として働いている 0人 (0.0%)
2. 商工サービス・自由業等の自営業及びその家族従業者として働いている 4人 (3.3%)
3. 常勤の勤め人として働いている 14人 (8.5%)
4. 会社等の役員をしている 3人 (1.8%)
5. 契約・派遣・臨時・パート・アルバイトとして働いている 19人 (11.5%)
6. シルバー人材センターで登録をし、短期的就労として働いている 0人 (0.0%)
7. その他 4人 (2.4%)
8. 働いていない 121人 (73.3%)

○会員は、現在働いていないひとが7割以上をしめることがわかりました。



(5)心配ごとや悩みごと(図5)

問10 あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。(あてはまるものすべてに○)



○会員の心配ごとは、1番が「自分の健康のこと」、次に「配偶者の健康のこと」であることがわかりました。また、「その他」に回答された24件の中で、「子どもの結婚や子どもの将来」について心配している人が13人おられることも特徴的でした。

## <地域での手助けや福祉サービス、地域福祉活動等について>

### (1)現在受けている手助けや福祉サービスについて

問 16. 現在、あなたはつぎのような手助け・サービスを家族や家族以外の人から受けていますか。(①～⑧の項目それぞれについて、横の欄の1から3の1つだけ○)

(①～⑧のあてはまるものすべてに○)	1. 受けている	2. 必要だが受けていない	3. 必要がない
①身体介護	8人(4.8%)	1人(0.6%)	128人(77.6%)
②安否確認の声かけ	8人(4.8%)	3人(1.8%)	126人(76.4%)
③ちょっとした買い物やゴミ出し	8人(4.8%)	3人(1.8%)	125人(75.8%)
④食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	10人(6.1%)	4人(2.4%)	126人(76.4%)
⑤配食	9人(6.6%)	3人(1.8%)	126人(76.4%)
⑥通院の送迎や外出の手助け	8人(4.8%)	3人(1.8%)	123人(74.5%)
⑦話し相手や相談相手	9人(6.6%)	6人(3.6%)	120人(72.7%)
⑧その他 ( )			

○会員の多くは、手助けや福祉サービスを受けていないこと、しかし10人近くの方が実際福祉サービスを受けていること、また、受けていないが必要とされていることがわかりました。

### (2)手助けや福祉サービスのニーズとその担い手について(図6)

問 17. あなたが、現在または将来利用したいサービス(A欄)、または、あなたが担い手になりたい(実践したい)サービス(B欄)はどれですか。

	A. 現在または将来、あなたが利用したいサービス	B. あなたが担い手になりたい(実践・提供したい)サービス
①安否確認の声かけ	61人(37.0%)	79人(47.9%)
②話し相手や相談相手	57人(34.5%)	62人(37.6%)
③急に具合が悪くなったときの手助け	102人(61.8%)	60人(36.4%)
④ちょっとした買い物やゴミ出し	52人(31.6%)	64人(38.8%)
⑤災害時の非難の手助け	79人(47.9%)	38人(23.0%)
⑥ちょっとした力仕事	73人(44.2%)	21人(12.7%)
⑦通院の送迎や外出の手助け	62人(37.6%)	39人(23.6%)
⑧食事の差し入れ	42人(25.5%)	40人(24.2%)
⑨食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	59人(35.8%)	30人(18.2%)
⑩気軽にいける自由な居場所の提供	68人(41.2%)	30人(18.2%)
⑪その他 ( )	0人(0.0%)	5人(3.0%)

○さまざまなサービスを、現在または将来利用したいと思っている人が多いことがわかりました。

★それらを希望する割合が多い順にまとめたのがつぎの表1、表2です。

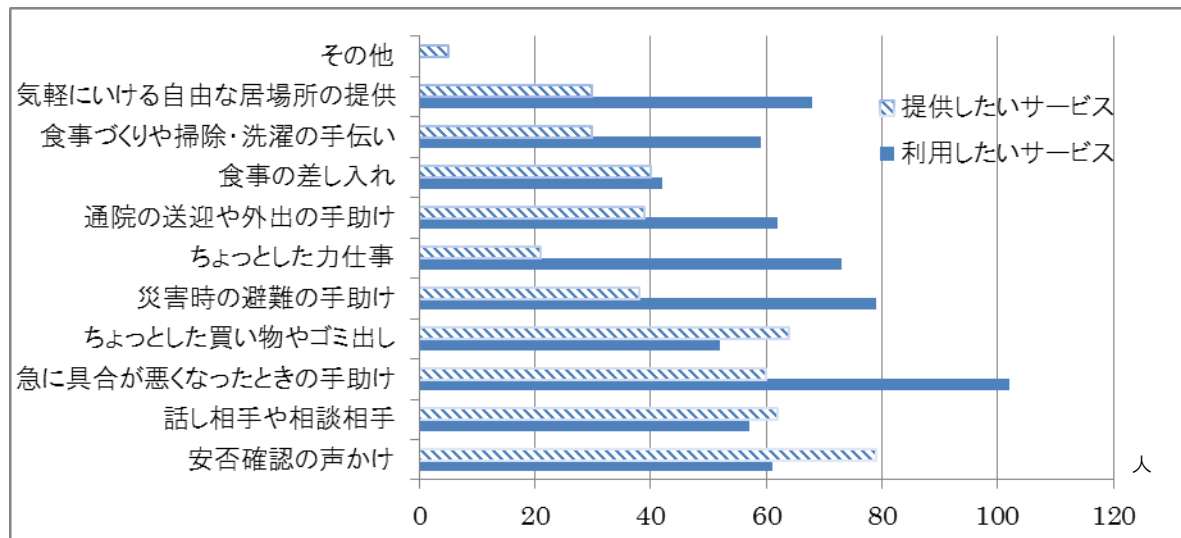
1	③急に具合が悪くなったときの 手助け	61.8%
2	⑤災害時の避難の手助け	47.9%
3	⑥ちょっとした力仕事	44.2%
4	⑩気軽に行ける自由な居場所 の提供	41.2%
5	⑦通院の送迎や外出の手助け	37.6%
6	①安否確認の声かけ	37.0%
7	⑨食事づくりや掃除・洗濯の手 伝い	35.8%

1	①「安否確認の声かけ	47.9%
2	④「ちょっとした買い物やゴミ 出し	38.8%
3	②「話し相手や相談相手	37.6%
4	③「急に具合が悪くなったと きの手助け	36.4%
5	⑧「食事の差し入れ	24.2%
6	⑦「通院の送迎や外出の手 助け	23.6%
7	⑤「災害時の避難の手助け	23.0%

○この表から、6割強の会員が「急に具合が悪くなったときの手助け」を望んでいることがわかります。それに比べ多く5割弱の会員が、自分が手助けをしたいと思っているのは「安否確認の声掛け」であることもわかりました。

★このようなサービスの需要と供給のバランスをみるため、上記表を図6にしました。

図6. 利用したい福祉サービス、提供したい福祉サービス(複数回答) n=165



○サービスを利用したいと思っている会員の方が、そのサービスを提供したいと思っている会員の数に比べて多かったのは、「急に具合が悪くなったときの手助け」「災害時の避難の手助け」「ちょっとした力仕事」でした。

○サービスを提供したいと思っている会員の方が、そのサービスを利用したいと思っている会員の数に比べて多かったのは、「安否確認の声かけ」「ちょっとした買い物やゴミ出し」「話し相手や相談相手」でした。

○気軽に行ける自由な居場所を望んでいる人も多いいこともわかりました。

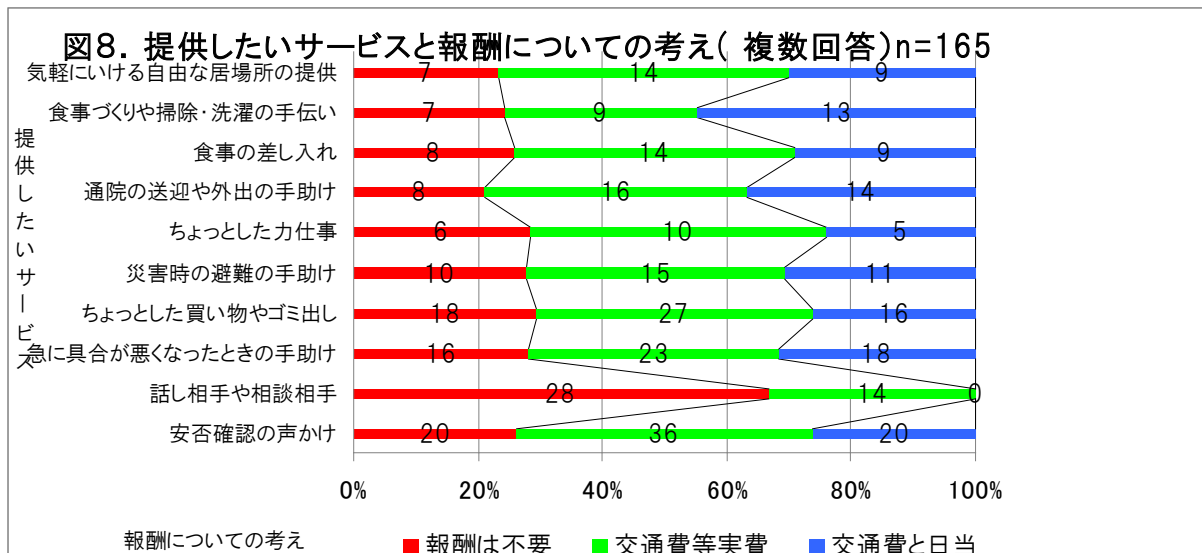
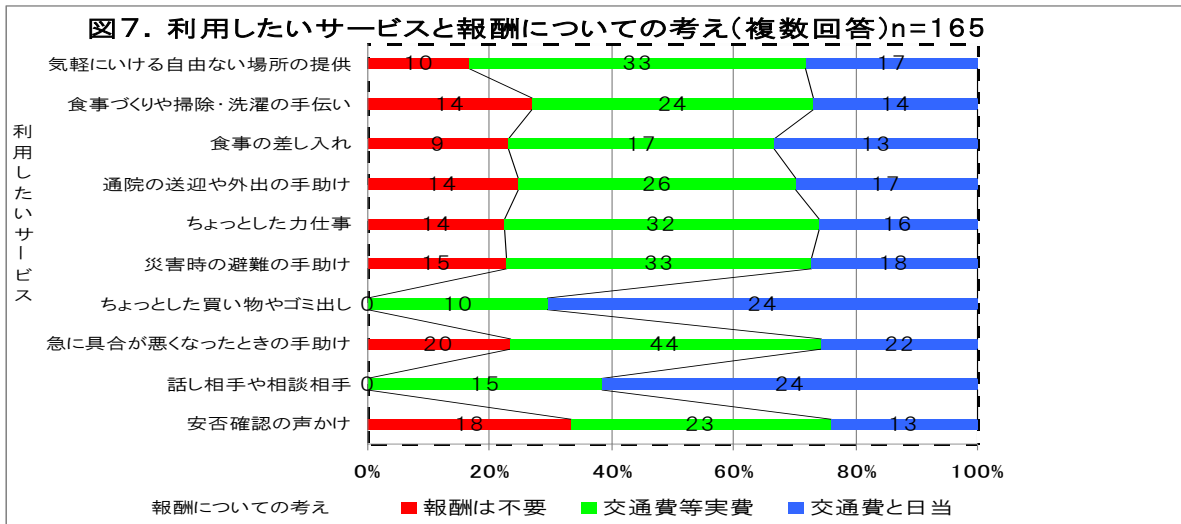
(3)福祉サービスの報酬について(図7, 図8)

問 18. 上記のようなサービスを担い手として提供する時の報酬や謝礼について、あなたのご意見をお聞かせください。(1つだけ○)

- 1. 地域活動だから謝礼や報酬は受けるべきではない 28人 (20.0%)
- 2. 地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいいは受けてもよい 67人 (40.6%)
- 3. 交通費などの実費に加えて、謝礼の意味で時給や日当ぐらいの報酬は受けてもよい 37人 (22.4%)
- 4. その他 2人 (1.2%)
- 5. わからない 4人 (20.4%)

○会員の福祉サービスに対する報酬についての考えは、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいいは受けてもよい」が最も高く、「交通費などの実費に加えて、謝礼の意味で日当ぐらいの報酬は受けてもよい」、「地域活動だから、謝礼や報酬などは受けるべきではない」という順でした。

★これらをもとにして、今後必要な人に必要なサービスを提供するため、また、サービスの担い手が助け合いの精神を尊重した気持ちいい活動ができるために、それぞれのサービスを利用したいと思うひとの報酬についての考え(図 7)と、それぞれのサービスを提供したいと思うひとの報酬についての考え(図 8)をクロス集計して分析しました。



○全般的にサービスを利用したいと考える人は、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいは受けてもよい」と思う人の割合が高いことがわかりました。とくに「話し相手や相談相手」や「ちょっとした買い物やゴミ出し」をしてもらうことを希望する人にとって、交通費などの実費、謝礼、日当等の報酬を払ってでも、そのサービスを受けたいと考えている人が多いということが伺えました。

○サービスを提供したいと考える人についても、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらいは受けてもよい」と思う人の割合が高いことがわかりました。なかでも、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」を提供したいと考える人は、報酬は受けてもよいという考えの人が多くということが伺えました。しかし、「話し相手や相談相手」をしたいという人は、謝礼や報酬などは受けるべきではないという考えの人が多くということが伺えました。

○「話し相手や相談相手」に着目した場合、話し相手や相談相手を必要としている人は「謝礼を払ってでも」してほしいと考えておられること、他方、話し相手や相談相手をしたい人は「謝礼は不要」と考えておられることがわかり、謝礼に対する相反する思いが特徴的でした。

#### (4)NPO法人の入会理由について

問 19. あなたが NPO 法人「高槻の高齢社会をよくする会」に入会された理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

1. 会の主旨に賛同したから 78 人 (47.9%)
2. 地域活動（学習活動やボランティア活動含む）に関心があったから 62 人 (37.5%)
3. 自分の老後にむけて、地域でのつながりが必要と思ったから 99 人 (60.0%)
4. 友人に誘われて 45 人 (27.3%)
5. その他 19 人 (11.5%)

○「老後にむけて地域でのつながりが必要と思ったから」が最も多く、次に「会の主旨に賛同したから」、「地域活動に関心があったから」、「友人に誘われて」の順でした。このことから、「高槻の高齢社会をよくする会」の会員は、自分の老後についてよく考え、地域活動に関心をもっている人が多いということが伺えました。

#### まとめ

やがてくる高齢社会、やがて来る自分たちの老後に向けて、地域での助け合いを掲げた「高槻の高齢社会をよくする会」が設立され 20 年が経ちました。本調査を終えた今、会員の方々がまさに地域での助け合いを必要とされている時期に入ったのだということを実感しました。

同時に、地域活動や会員間の助け合いに関心をもつ方々、その担い手になりたいという方々の存在も知り、将来への大きな希望となりました。

今後は、サービスを必要とされている会員の声を素早くキャッチする機能、サービスを必要とする会員と提供したい会員間を調整する機能、そしてそれらを含む相談機能等の充実にむけて、会員間の活発な話し合いが重要となってくることでしょう。(木村)